



第 285 回つくば分子生命科学セミナー

TSUKUBA MOLECULAR LIFE SCIENCE SEMINAR

演題：感覚神経ネットワークの可塑性を司るメカニズム

演者：長谷川 潤 先生

筑波大学人間総合科学研究科

若手大学人育成イニシアティブ

日時：2009 年 3 月 23 日（月） 17:00-18:00

会場：臨床講義室 C

要旨：全身を統御する複雑な神経ネットワークを構築するためには、神経細胞それ自身の持つ性質の他に、環境からの適切な因子が必要であると考えられている。演者らは、感覚神経の可塑性が $TGF\beta$ ファミリーの因子により調節されていることを見出した。感覚神経の投射先である皮膚からの逆行性 BMP シグナルは体部位再現地図 (topographic map) が正確に形成されるために必要であった。一方で、皮膚からの activin/ $TGF\beta$ シグナルは軸索の伸長を抑制しており、神経軸索の伸長を阻害する因子であった。また、これらを解析する過程で発見した Advillin 遺伝子の神経可塑性における機能も合わせて紹介する。

連絡先： 人間総合科学研究科 金保安則 (内線 3282)

【筑波分子医学協会 (TSMM) 主催】 HP <http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/tsmm/>

セミナー担当 筑波大学基礎医学系 塩見健輔